

# Contact Center UCCE/PCCEのデータベースパフォーマンスの向上

## 内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[TempDBのパフォーマンス向上](#)

[手順](#)

[ログデータベースのパフォーマンス向上](#)

[手順](#)

[AW-HDSデータベースのパフォーマンス向上](#)

[手順](#)

[レポートパフォーマンスの向上](#)

[HDSの予約済み未使用スペースの削減](#)

[手順](#)

[関連情報](#)

## 概要

このドキュメントでは、Cisco Unified Contact Center Enterprise(UCCE)でアップグレード後にデータベースパフォーマンスを向上させる方法について説明します。

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco Unified Contact Center Enterprise ( UCCE )
- Package Contact Center Enterprise(PCCE)

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアのバージョンに基づいています。

- UCCE/PCCEリリース12.6
- Microsoft SQL Server 2017 ( StandardエディションおよびEnterpriseエディション ) と累積的な更新プログラム
- Microsoft SQL Server 2019 ( StandardエディションおよびEnterpriseエディション ) と累積的

## な更新プログラム

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

## 背景説明

共通基盤またはテクノロジーの更新アップグレードを実行した後、このセクションで説明する手順を実行して、データベースのパフォーマンスを向上させます。これは1回限りのプロセスであり、メンテナンス時間帯にLoggerおよびAW-HDSデータベースでのみ実行する必要があります。

注：AW-HDS - Admin Workstation Historical Data Server、HDS-DDS - Admin Workstation Detail Data Server、AW-HDS-DDS - Admin Workstation Historical Data Server/Detail Data Server。

## TempDBのパフォーマンス向上

注：テクノロジーの更新アップグレードを実行する場合は、このセクションを省略できます。

Logger、Rogger、AW-HDS-DDS、AW-HDS、およびHDS-DDSマシンでこの手順を実行し、SQL ServerのTempDB機能の利点を得ます。SQL Server TempDBデータベースとその使用法の詳細については、TempDBデータベースのMicrosoft SQL Serverのマニュアルを参照してください。

注：この手順は、Common Groundアップグレードプロセスにのみ適用されます。TempDBのパフォーマンス向上の手順が12.5(1)ですでに完了している場合、12.5(2)にアップグレードする間は同じ手順を繰り返さないでください。

## 手順

1. Unified CCE Service Controlを使用して、ロガーサービスとディストリビュータサービスを停止します。
2. SQL Server Management Studioにログインし、プライマリデータベースで前述のクエリを実行します。

TempDBの初期サイズを推奨値に変更するには、次の手順に従います。

```
ALTER DATABASE tempdb MODIFY FILE
    (NAME = 'tempdev', SIZE = 800, FILEGROWTH = 100)
ALTER DATABASE tempdb MODIFY FILE
    (NAME = 'templog', SIZE = 600, FILEGROWTH = 10%)
```

複数のTempDBファイルを追加するには、次の手順に従います。

```
USE [primary];
GO
ALTER DATABASE [tempdb] ADD FILE
(NAME = N'tempdev2', FILENAME = N'' , SIZE = 800 , FILEGROWTH = 100); ALTER DATABASE
[tempdb] ADD FILE
(NAME = N'tempdev3', FILENAME = N'' , SIZE = 800 , FILEGROWTH = 100); ALTER DATABASE
[tempdb] ADD FILE
(NAME = N'tempdev4', FILENAME = N'' , SIZE = 800 , FILEGROWTH = 100); GO
```

注：例= C:\Program Files\Microsoft SQL

Server\MSSQL12.MSSQLSERVER\MSSQL\DATA\tempdev2.ndf

マシンに基づいてクエリの値を変更してください。詳細については、「[TempDBのデータベースとログファイルのサイズを増やす](#)」を参照してください。

3. SQLサービスを再起動します。
4. ロガーサービスとディストリビュータサービスを開始します。

## ロガーデータベースのパフォーマンス向上

### 手順

ロガーデータベースのサイドAとサイドBでこの手順を実行します。

1. Unified CCE Service Controlを使用して、ロガーサービスを停止します。
2. コマンドプロンプトから、<SystemDrive>:\icm\binディレクトリにあるRunFF.batファイルを実行します。
3. ICMデータベースへのフィルファクタの適用に進みます。  
注：データベースのサイズに基づいて、データベースにフィルファクタを適用するのに数分から数時間かかります。たとえば、300 GBロガーの場合は、2 ~ 3時間かかります。処理が完了すると、ログファイルは<SystemDrive>\temp\<DatabaseName>\_Result.txtに保存されます。
4. Unified CCE Service Controlを使用して、ロガーサービスを開始します。  
問題のトラブルシューティング：  
詳細については、RunFF.bat/helpファイルを参照してください。

## AW-HDSデータベースのパフォーマンス向上

### 手順

1. Unified CCE Service Controlを使用して、ディストリビュータサービスを停止します。
2. コマンドプロンプトから、<SystemDrive>:\icm\binディレクトリにあるRunFF.batファイルを実行します。
3. ICMデータベースへのフィルファクタの適用に進みます。  
注：データベースのサイズに基づいて、データベースにフィルファクタを適用するのに数分から数時間かかります。たとえば、300 GBのHDSの場合は、2 ~ 3時間かかります。処理が

完了すると、ログファイルは<SystemDrive>\temp\<DatabaseName>\_Result.txtに保存されます。

4. Unified CCE Service Controlを使用して、ディストリビュータサービスを開始します。  
問題のトラブルシューティング：  
詳細については、RunFF.bat/helpファイルを参照してください。

## レポートパフォーマンスの向上

レポートアプリケーションのパフォーマンスを向上させるには、データベースサーバ(AW-HDS、AW-HDS-DDS、HDS-DDS)で前述のWindows設定を変更します。

1. ページングファイルサイズをサーバメモリの1.5倍に増やします。ページングファイルサイズを変更するには、コントロールパネルで[仮想メモリ]を検索します。[仮想メモリ]ダイアログボックスで、[カスタムサイズ]を選択します。初期サイズと最大サイズの両方を、サーバメモリの1.5倍に設定します。
2. サーバの[Power Options]を[High Performance]に設定します。Control PanelからPower Optionsを選択します。デフォルトでは、「バランス」プランが選択されています。[追加のプランを表示する]を選択し、[高パフォーマンス]を選択します。
3. SQL Serverで、AWおよびHDSデータベースのAuto Update Statisticsを無効にします。SQL Server Management Studioで、オブジェクトエクスプローラのデータベース名を右クリックし、[プロパティ]を選択します。[オプション]ページを選択します。ページの[Automatic]セクションで、[Auto Create Statistics]と[Auto Update Statistics]を[False]に設定します。

## HDSの予約済み未使用スペースの削減

Microsoft SQL 2017へのアップグレードまたは移行後に、AW-HDS、AW-HDS-DDS、HDS-DDSデータベースサーバの予約済み未使用領域の増加を減らすために、HDSデータベースサーバでトレースフラグ692を有効にします。トレースフラグ692の詳細については、Microsoftのドキュメントを参照してください。

### 手順

1. 上記のコマンドを実行して、HDSデータベースサーバでトレースフラグ692を有効にします。

```
DBCC traceon (692, -1);  
GO
```

注：未使用スペースが増加すると、HDSで予期しないページトリガーが発生する可能性があります（トレースフラグ692を使用）。これは、予期しないページの問題を軽減するのに役立ちます。トレースフラグを有効にすると、短時間でCPUが10%から15%に増加します。トレースフラグを保持する必要がある場合は、サーバの起動オプションを-T（大文字）オプションで更新する必要があります。詳細については、「[データベースエンジンサービスのスタートアップオプション](#)」を参照してください。

## 関連情報

[UCCE/PCCEインストールアップグレードガイド](#)

[テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。